

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価書

令和2年1月31日（金）

（甲斐市立敷島中学校）学校関係者評価委員会作成

第2回 学校評議員・学校関係者評価委員会合同会議

実施日：令和2年1月24日（金）午後4時～

会場：校長室

参加者：（学校評議員兼学校関係者評価委員）

（委員長）河西壽人，国久朝子，小宮山齊，保延浩子，堀端利栄子

（学校関係者評価委員）小林 淳

（学校側）

（校長）中満一幸，（教頭）樋川和之

I 学校側から提案された内容

- ・「自己評価（教職員評価）シート」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の分析結果及び課題点と改善策を示した「自己評価書」
- ・自己評価（教職員評価）シート集計結果表（前年度・本年度，甲斐市との比較）
- ・生徒アンケート集計結果表（前年度・本年度，甲斐市との比較）
- ・保護者アンケート集計結果表（前年度・本年度，甲斐市との比較）

II 協議された主な内容

学校側から提示された自己評価書及び生徒アンケート，保護者アンケートの結果に基づき，本校の教育活動や学校運営の状況の分析について，課題点が正しく把握されているか，改善策が適切であるか等について協議した。また，学校運営に関することや生徒の様子，今日的な教育課題等について意見交換を行った。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員による自己評価は，すべての項目において，A評価又はB評価が最も多い回答割合であった。A評価が最も回答割合が高かったのは35項目，B評価が最も回答割合が高かったのが14項目であった。また，C評価とD評価を合わせて10%（1割）以上の評価があった項目は，49項目中2項目あった。このことから，全体的に見て敷島中の教職員は，校長が掲げる学校経営方針に基づいた教育活動に日々懸命に取り組んでいることがわかる。生徒アンケートでは，授業について，「授業が楽しい」「授業がわかる」と答えた割合が前年度より高くなっている。しかし，授業中の発言や発表の割合が低くなっているため，校内研究と関連づけた，個に配慮したわかる授業や学ぶ意欲を喚起する授業づくり，また「やまなしスタンダード」の授業改善の視点の一つ「自分の考えを発表・交流する機会」を多く設け，質問や発言を引き出す授業に，さらに取り組む必要がある。他にも，宿題や家庭学習の目標時間をクリアしている割合が約7割と昨年を上回ったものの，宿題を忘れずにしている割合は昨を下回ったため，原因を丁寧に分析し，生徒の実態に即した改善を推し進め，継続的な取組を期待したい。全体的に課題もいくつかあるが，その改善に向け，管理職のリーダーシップの下，全教職員が参画し，本年度のまとめをしっかりと行ってほしい。

II 特徴

- ・校長の経営方針，教育理念を全職員が共有し，教育活動が行われている。
- ・学校運営についても，とても良好である。職員会議や諸会議を学校経営に効果的に位置づけながら，教職員一人一人がより主体的に学校運営に参画していく必要がある。
- ・基礎基本の習得，学習意欲の喚起，学習指導についての取組に力を入れている「わかる授業」「より学びたくなる授業」について継続して取り組むことが重要である。
- ・「報告・連絡・相談・確認」を大切にし，組織的に教育活動が行われている。
- ・生徒アンケートでは，授業について，「授業が楽しい」「授業がわかる」と答えた割合が前年度より高くなっている。しかし，授業中の発言や発表の割合が低くなっているため，校内研究と関連づけた，個に配慮したわかる授業や学ぶ意欲を喚起する授業づくり，また「やまなしスタンダード」の授業改善の視点の一つ「自分の考えを発表・交流する機会」を多く設け，質問や発言を引き出すような「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識した授業改善の取組を継続する。
- ・家庭学習の充実や読書活動，地域の活動への参加や部活動への積極的な参加については課題があるので，今後課題解決の手立てを講じ，取り組む必要がある。

III 今後の課題として意識されたいこと

- ・昨年度及び，今年度の学校評価の結果を踏まえ，本校の課題及び改善策を全教職員が共有し，学校運営改善の取組を行っていく。様々な活動において，PDCAの段階を丁寧に行い，教育活動の工夫・改善を進める。
- ・すべての教職員が自己の分掌や役割を認識し，他の教職員と連携，協働する中で，主体的に学校運営へ参画していく意識の更なる向上を図る。連携・協働をさらに進めることによって，同僚性を高め，学校の活性化を図っていくようにしたい。
- ・学習指導，生徒指導，生活指導はこれでよいというものはない。課題に気づく目を持ち，組織をフルに活用して改善，向上を目指したい。
- ・保護者，地域と学校の連携を推進し，開かれた学校づくり，信頼される学校づくりを一層進める。

※特記事項

- ・自己評価において，100%の項目が多くなっている。これは，本校の教職員がまともになっている証拠でもあると思う。教職員の多忙化が話題となる中，先生方には感謝している。教員が資本なので，業務改善やそれに伴う行事精選等も行いながら，明るく，元気よく活動できるよう環境を整えてほしい。
- ・学力調査等の結果が良くなったのは，先生方がよくみているからである。授業である程度は分かるが，個々に聞けるかどうかは生徒の性格や発達段階にもよる。個々に話ができる時間の設定や一人一人が理解しているかどうかを把握する工夫やフォローもできるといい。
- ・先生に困ったことや授業でわからないことを相談すると回答した生徒が7割であった。友人や親に相談する場合も十分あると思うが，これからも声かけをお願いしたい。また，困っていない場合もあるので設問も考えた方がよい。
- ・地域に対する子どもの自覚が低いように感じる。大人からのアドバイスなど地域の方々との接点が少ない。保護者アンケートも，同様の結果だが，どのような理由で，地域行事等への参加が少ないのか，理由がわかる設問を設定するのもよい。
- ・まとめにも記載されているように，学校評価の結果を全職員で共有し，各教職員が課題意識を強くもって，今後も課題解決に取り組んでほしい。

記載責任者

甲斐市立敷島中学校 学校関係者評価委員会委員長 河西 壽人

